

学生・教員・図書館職員の協働による学修支援の取り組み

亀岡 由佳 (徳島大学 附属図書館)
佐々木奈三江 (徳島大学 附属図書館)
岩野 宏治 (徳島大学 附属図書館)
吉田 博 (徳島大学 総合教育センター)

1. はじめに

近年の大学教育においては、学生の能動的学修の促進が強く求められており、教育改革の一環として学修環境の整備・充実が課題の1つとされている。このような背景の中、徳島大学は「徳島大学機能強化プラン」¹⁾に基づいて教育機能強化に取り組んでおり、徳島大学附属図書館も「図書館の理念・目標」²⁾に教育・学修支援に軸足を置いた図書館への転換を明記している。図書館ではこれまでも施設や設備、資料を揃え、ラーニング・コモンズを整備し、学生の能動的学修を促進するための環境を整えてきたが、人的学修支援を行うには至らなかった。しかし、2013年度からは学生・教員・図書館職員が協働することにより、学習相談窓口を開設することができた³⁾。さらに、2014年度からは、能動的学修への動機づけとなるような学修イベントを開催するなど、間接的な学修支援にも力を入れている。本発表は、徳島大学附属図書館における学修支援の取り組みについて、運営を行っている「学びサポート企画部」の活動と実績を紹介するとともに、現状における成果と今後の課題、学生・教員・図書館職員の協働による学修支援の利点について明らかにする。

2. 学びサポート企画部

学びサポート企画部は、徳島大学公認サポート系サークルである。活動理念は、「大学生の日々の学習における躓きに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う」であり、学生3名と助言指導に当たる図書館職員3名、総合教育センターの教員1名で構成されている(2015年3月現在)。学習相談サービスの運営や学修関連イベントの企画を行っており、図書館も組織として協力・支援している。

3. 学びサポート企画部の活動と実績

(1) Study Support Space (SSS)

SSSは学生の学習に関する相談に対してアドバイザーが対応する取り組みで、2013年4月より実施している。アドバイザーは教員11名、図書館職員1名、大学院生5名、学部学生2名の計19名(2015年3月現在)が登録しており、SSS時間割【図1】に合わせて附属図書館本館1階のピア・サポートルームにて待機し、訪れた学生の相談に対応している。SSSを開設して以降、授業期間中の平日は毎日実施し、2014年9月末時点までの累計相談者数は532名であった。2014年度の学年別相談者の割合は約半数が1年生であり、相談内容も【図2】から分かるように約半数以上が学習に関する質問などの学習相談であった。学習相談内容の内訳は【図3】の通りである。これらのデータから、SSSは主に初年次学生の理系科目に関する相談が多く、徳島大学生の理系基礎科目における理解不足を解消する場として活用されていることがわかる。

(2) レポートの書き方講座

レポートの書き方講座は、「学生がレポートの書き方に関する基本的な知識を習得すること」を目的とした講習会である。4月21日、23日の2日間、それぞれ1時間程度実施し、累計参加者数は29名であった。参加者アンケートでは「レポートの書き方について理解できた」という意見が多く、本企画に対する満足度の高さが伺えた。

(3) 先生のコバナシ

先生のコバナシは、「大学で行われている“研究”について、内容や考え方、教員の熱意などを学生が知ることで、大学における学習や研究に対する動機づけを行うこと」を目的に実施したイベントである。各分野の教員に30分から1時間程度の時間で、自身の研究内容や研究に対する思いを語って頂いた。6月30日～7月4日の5日間実施し、累計参加者数は61名であった。参加者アンケートでは「知らない分野の話が聞けて面白かった」「教員の研究に対する思いを知ることができた」「会場の雰囲気が固くなかったのが楽しかった」という意見があった。

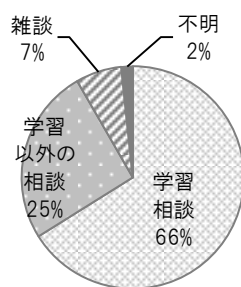
4. まとめ

学びサポート企画部の活動は学生・教員・図書館職員が協働して行っている学修支援である。その中で、学生は自分たちが必要性や興味を感じるサービス・イベントを企画することができる。一方、教員は学生の様子や他の授業の様子を知ることができ、授業改善につなげることができる。また、図書館にとっても図書館の施設・サービスについて学生や教員にアピールできるチャンスであると言える。それぞれに利点がある上に、特性を活かし、補い合うことで、より大きな効果を得ることが可能となっている。実際に学びサポート企画部の活動は、この効果により、学生の学習に関する疑問点の解消や学習内容の定着、学習・研究に対する動機づけなどに貢献できていると考えられる。

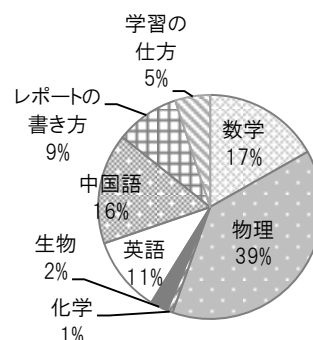
しかし、SSSに訪れる学生や企画に参加する学生は多いとは言えず、徳島大学における学修支援として十分に機能を果たすためには、企画の質の向上、広報面の強化、運営体制の充実・安定化、正課教育との関連付けなどの課題が残されている。

曜日	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
14:00	物理学 木村 隆之 先生	経済学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生
15:00	物理学 木村 隆之 先生	経済学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生
16:00	物理学 木村 隆之 先生	経済学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生
17:00	物理学 木村 隆之 先生	経済学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生
18:00	物理学 木村 隆之 先生	経済学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生
19:00	物理学 木村 隆之 先生	経済学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生
20:00	物理学 木村 隆之 先生	経済学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生
21:00	物理学 木村 隆之 先生	経済学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生
22:00	物理学 木村 隆之 先生	経済学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生
23:00	物理学 木村 隆之 先生	経済学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生	社会学 藤田 隆之 先生

【図1】SSS 時間割表



【図2】2014年度前期 相談内容の内訳



【図3】2014年度前期 学習相談内容の内訳

参考文献

- 1) 徳島大学機能強化プラン（参照日：2015.1.9）
http://www.tokushima-u.ac.jp/_files/00167932/kinoukyoukaplan2510.pdf
- 2) 徳島大学附属図書館の理念・目標（参照日：2015.1.9）
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/pub/philosophy-and-goals/201404.pdf>
- 3) 吉田博・佐々木奈三江・亀岡由佳・枝川恵理・斉藤くるみ；大学図書館で実施する学習支援の成果と課題，大学教育研究ジャーナル，11，26-37，2013.